

結成19周年

ソニードギター合奏団 第14回定期演奏会

チャイルドサポートコンサート
全ての子どもの未来に夢と希望と笑顔を！

那覇公演：2023年5月21日（日）

那覇市 パレット市民劇場

開場 午後3時15分 開演 午後4時00分

後援：沖縄子どもの未来県民会議

那覇市教育委員会・浦添市教育委員会



ごあいさつ

本日はご多用の中、定期演奏会にご来場賜り感謝申し上げます。近年の定期演奏会はコロナウイルス蔓延で令和2年と3年は開催を中止、昨年令和4年は不安が残る中での開催でしたが、直前のコロナ急拡大にもかかわらず330名余の来場がありました。ご支援に心より感謝致します。又賛助出演の方々、会場スタッフの方々にもいつも快くご支援頂き厚く御礼申し上げます。

さて、私たちは「ギターを楽しみつつ社会に貢献すること」をモットーに、今年も「チャイルドサポート」のご協力を呼びかけさせていただきます。募金は青少年貧困対策事業資金として全額沖縄県に寄付させていただきます。お陰様で2016年以来累計募金額は217万円余となりました。

来年は結成20周年を迎えますが、節目にふさわしい演奏会を企画し、また会場でお会いできることを楽しみにしております。

本日はどうぞ最後までギター演奏会をお楽しみください。また、皆様のご感想やご意見などはサークル活動にとっても有益で励みになりますので、ぜひアンケートへのご協力を下さいますようお願い申し上げます。

ソニードギター合奏団 代表 与那嶺光國



プログラム

❀第一部❀ ギター合奏

- ☆ 四羽の白鳥の踊り :チャイコフスキー作曲
- ☆ スラヴ舞曲第10番 :ドヴォルザーク作曲
- ☆ ハンガリー舞曲第5番 :ブラームス作曲

❀第二部❀ 独奏・重奏・小編成 特別ゲスト

- ☆ プレリュード BWV999 半澤ハナ
- ☆ カナリオス 半澤ハナ

独奏

- ☆ アルハンブラの思い出 又吉けい子
- ☆ アストウリアス 東風平朝盛

二重奏

- ☆ ファルーカ 比嘉範子・中村麗子
- ☆ トルコ行進曲 東風平朝盛・親泊正善

三重奏

- ☆ 少年時代 小野光恵・宮本三郎・鴻巣芳博

休憩

❀第三部❀ ギター合奏

- ☆ 奥様お手をどうぞ
- ☆ エデンの東
- ☆ 赤いスイートピー
- ☆ 古賀メロディ・メドレー(丘を越えて・影を慕いて・
誰か故郷を想わざる)
- ☆ ティコティコ・ノ・フバー
- ☆ コーヒールンバ

曲目解説 (第一部)

四羽の白鳥の踊り (チャイコフスキー)

チャイコフスキーのバレエ音楽「白鳥の湖」は、昼間は白鳥、夜だけ人間に戻る魔法にかけられた姫と王子の物語である(1876年完成)。「四羽の白鳥の踊り」は第2幕で白鳥たちの舞踊曲で、「白鳥の湖」で最も有名な「情景」に次ぐ人気の曲である。日本における「白鳥の湖」全幕初演を、1946年8月9日から30日まで、帝国劇場にて東京バレエ団が挙行了した。

スラヴ舞曲第10番 (ドヴォルザーク)

スラヴ舞曲集はブラームスがドヴォルザークに郷土色豊かな作曲を勧め東欧の民族色豊かな舞曲のリズムによる曲を集めた作品で、第10番は全18曲中、もっとも有名な曲です。

この曲には悲しさや、さみしさが漂いますが、なんとも透明感があって心をつかんでくる 1 曲です。素晴らしいメロディメーカーとしてのドヴォルザークの真骨頂とも言えそうな名曲中の名曲。スラヴは現在のロシア、ウクライナからポーランド、チェコ、スロヴァキア、セルビア、クロアチア、ブルガリアまで含まれます。スラヴ内での現在の戦争は何とも心が痛みますが、一日も早い平和が訪れることを祈ります

ハンガリー舞曲第5番 (ブラームス)

ハンガリー舞曲集は 1869 年の作品でブラームスがハンガリーのジプシー(ロマ)音楽に基づいて編曲したものであり全 21 曲中、第5番が最も有名です。オーケストラでの演奏が広く知られていますが、最初はピアノのために書かれて爆発的な人気を博しました。しかしこの作品の成功を知ったハンガリー音楽家たちがこの作品は盗作であると訴訟問題になりましたが「編曲」としていた為、ブラームスの勝訴になりました。

曲目解説 (第二部)

プレリュード BWV999 (バッハ)

古くからギターでも愛奏されるバッハの小品で、全編アルペジオで紡がれる。オリジナルは「リュートのための前奏曲」とされCマイナー(ハ短調)だが、ギターではDマイナー(二短調)で演奏される。

カナリオス(ガスパル・サンス)

ガスパル・サンスは17世紀スペインの作曲家、バロック音楽における主要人物の一人で、ギタリストでオルガニストでもある。この曲は大西洋に浮かぶスペインのカナリア諸島が起原の舞曲。この時代のギターはバロックギターといい弦は5本で調弦も今のギターとは違っていた。

アルハンブラの思い出 (F・タレガ)

この曲はスペインの作曲家・ギタリストであるフランシスコ・タレガによって、1896年に作曲されました。タレガ自身がアルハンブラ宮殿の中庭にあるライオン噴水の水の音からインスピレーションを得て作曲したといわれています。「トレモロ奏法」と呼ばれる、右手の薬指、中指、人差し指で一つの弦を繰り返し素早く弾くことによりメロディを奏で、親指はバス声部と伴奏の分散和音を担当します。

アストゥリアス (F・タレガ)

アルベニス作曲「スペイン組曲」の中で最も印象的な楽曲で、元々ピアノ曲だったのを後にタレガによってギター曲に編曲され、以後ギター版が有名になった。アストゥリアスはスペイン北部に実在する地名。

ファルーカ(スペイン民謡)

この曲はフラメンコ二重奏。「ファルーカ」はフラメンコ音楽の一つでスペイン北西のカリシア地方にその起源があると考えられています。ポピュラーな男性用ソングで、同時に伝統的に男性のみによって踊られて来ました。4/4拍子の2つの舞踏リズムで踊られます。

トルコ行進曲(モーツァルト)

この曲はモーツァルトのピアノソナタ第11番から第3楽章の「トルコ行進曲」で、モーツァルトがこれを書いた1783年は、トルコの大軍がウィーンを包囲した歴史的な戦いから百年目の年でした。ウィーンの街ではかつての敵国トルコへの関心が高まり、市民生活から芸術まで様々な分野で空前のトルコブームが巻き起こっていたのです。これに乗ったのが、ベートーベン、ハイドン、そしてモーツァルトでした。

今年2月、トルコでは未曾有の歴史的大地震に見舞われましたが、一日も早い復興を願わずにはられません。

少年時代 (井上陽水)

1990年にリリースされたこの曲は陽水自身の最大のヒット曲であり代表作の一つである。

「風あざみ」「夏模様」「宵かがり」「夢花火」など独自造語を用いることによって少年時代の楽しかった日々を想像させる曲で1994年以降の中学校・高等学校の音楽教科書には何度も掲載されているほどです。

曲目解説 (第三部)

奥様お手をどうぞ(R・アーヴィン)

1928年に制作されたドイツのサイレント映画の主題曲、コンチネンタル・タンゴの名曲として多くの楽団や歌手に取り上げられてきた。

エデンの東(レナード・ローゼンマン)

この曲は原作ジョン・スタインベックの小説「エデンの東」を原作として1955年にアメリカで公開された同名映画の主題曲でありにも有名です。初主演となるジェームズ・ディーンはこの作品で大スターになりましたが、公開半年後急死しています。

赤いスイートピー(松任谷由実)

1982年にリリースされ松田聖子が歌った名曲。知り合ってから半年も経つのに手すら握らない彼… そんなプラトニックな関係に迫る切ない歌詞に多くの女性が共感した。この曲をきっかけに松田聖子の女性ファンが急増し、その後1988年に「続・赤いスイートピー」も収録された。

古賀メロディ・メドレー(古賀政男)

丘を越えて

昭和6年に発表され、振興キネマ映画「姉」の主題曲となった。古賀政男が自身の青春の思い出を曲にした作品で歌手藤山一郎の大ヒット曲となった。元は古賀が「ピクニック」というタイトルで明治大学マンドリン倶楽部の合奏曲とした作曲したものである。

影を慕いて

昭和7年古賀政男の処女作、人間古賀が、人生の苦悩と絶望の中から魂の叫びとして生み出した作品で昭和史上最高傑作の一つである。藤山一郎はこの曲で学生のまま覆面デビューした。

誰か故郷を想わざる

昭和15年に発売された戦時歌謡曲で、故郷を遠く離れ、友と遊んだ野山や、嫁ぐ姉を見送った寂しさなどの思いを軽快なメロディに乗せて霧島昇が歌い大ヒットした曲です。

ティコティコ・ノ・フバー(ゼキーニア・ジ・アブレウ)

1917年に作曲されたブラジルのポピュラー音楽(ショーロ)で映画「コパカバーナ」でブラジル人歌手カメルン・ミランが歌って世界的大ヒットとなった。単に「ティコティコ」として良く知られています。題名は「トウモロコシをついばむ雀」という意味。作者がある若者たちのダンスパーティの様子を表現したことが由来とのこと。

コーヒールンバ(ホセ・ペローニ)

ベネズエラのラテン音楽として1958年に作曲された。原題は「モリエンドカフェ」「コーヒを挽きながら」という題名でアルパ奏者のウーゴ・ブランコの演奏で世界的にヒットしました。又日本では西田佐知子さんが原歌詞とは無関係で歌った「コーヒールンバ」が有名です。



ソニードギター合奏団および出演者紹介

「ソニード」とは、スペイン語で「音・音色」の意味です。活動は、浦添中央公民館で毎週火曜日午後7時～9時。団員数は、26名(男18名・女8名)休部中2名(2023年4月現在)。2004年4月「ソニードギター合奏団」として10名余りで発足。公民館等での演奏会を経て、2014年に10周年第7回定演を「パレット市民劇場」で開催、以来2015年からは毎年5月に那覇と名護で定期演奏会を開催してきたがコロナ蔓延で2ヶ年中断し昨年から再開した。

演奏は、エネルギッシュな合奏を中心に、クラシック・ポピュラー・懐メロ・ラテン音楽・沖縄の歌などいろいろなジャンルに挑戦。又3ヶ月毎に「ファミリーコンサート」や「居酒屋懇親会」を開き懇親を深めている。団員の平均年齢は高く、居住は那覇、浦添を中心に全島に跨り、プロ指導者のいない自主活動団体として、県内ギターサークルでは高い評価を受けている。

団員(氏名は五十音順) ※()氏名は休会団員

A班 : 北沢長一・玉城達也・玉那覇康一郎・西里絵美
比嘉範子・又吉けい子・松井和夫・安田健二
(金城勲・島袋 操)

B班 : 内原和美・北村 惇・喜屋武富男・金城茂子・高橋昭二・
仲村佳久・真喜屋齊・嶺井政彦・与那嶺光國

C班 : 小野光恵・親泊正善・垣花脩・鴻巣芳博・東風平朝盛
謝花長一郎・仲村麗子・宮本三郎・屋我恵子

指揮 : 親泊正善(第一部)・高橋昭二(第三部)

賛助出演

フルート : 仲吉加代子(さつき会)

コントラバス : 山里三也(沖縄交響楽団)

パーカッション : 伊東範雄・又吉 均(ギター)

司 会 : 宮城 あずさ(浦添市てだこ大使)